

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、9～20℃台を示し、やや低い水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網――西彼地区では、マサバなどが1日1統当たり8トンの水揚げで、前週の67%（前年を下回った）。五島奈留地区では、マアジなどが1日1統当たり4トンの水揚げで、前週の4倍（前年を上回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり9トンの水揚げで、前週の50%（前年並み）。橘湾地区では、カタクチイワシなどが1日1統当たり10トンの水揚げで、前週の43%（前年を上回った）。
- イカ釣――スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり116kgの水揚げで、前週の3.3倍（前年並み）。壱岐勝本地区では、1日当たり6トンの水揚げで、前週を上回った（前年を上回った）。
- 定置網――五島魚目地区では、ブリなどが1日1統当たり160kgの水揚げ。北松生月地区では、スルメイカなどが1日1統当たり456kgの水揚げ。対馬西岸地区では、ササイカなどが1日1統当たり38kgの水揚げ。対馬東岸地区では、スルメイカなどが1日1統当たり122kgの水揚げ。
- 一本釣――北松宇久地区では、ブリが1日当たり195kgの水揚げで、前週の1.9倍（前年を上回った）。北松小値賀地区では、ブリが1日1統当たり11kgの水揚げで、前週の55%（前年を下回った）。
- 延縄――北松小値賀地区では、アマダイが1日1統当たり25kgの水揚げで、前週の63%（前年を下回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（2/15～2/18）の沖合イカ釣は、船凍船は青森県沖で赤イカ操業。沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び浜田・隠岐周辺・山形沖・青森県沿岸にかけて出漁した。

境港基地の小型イカ釣船 3日24隻入港、総計1,967箱。1航海最高250箱、平均82箱、スルメ（20・25入）1,967箱。

（漁業情報サービスセンターより）